



読んでいますか？ 広報

越地方の広報紙にこのスタイルが多い。

三月議会が遅くなったのは広報の締切が十五日で議会は月下旬に終わるので早くても

掲載は五月号となる。ところが、五月号には予算を掲げたため翌月号となった。来年度は検討したい。家庭へは各自自治会によって違ふと思うが、発行日後の金曜日に自治会に届けている。それから各家庭に行くが、早い自治会で一日二日ではないか。広報を住民に読んでもらえよう苦心している。

高速バス停駐車場は35台収容12月に完成

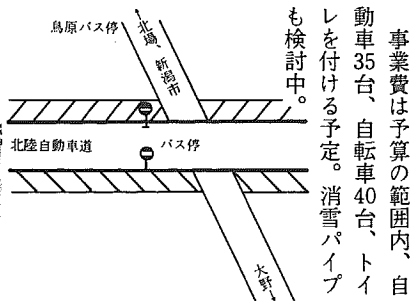
F議員 今年度高速バス停の駐車場に予算がついたが、具体的にどう建設するのか。着工と完成はいつか。

事業費を道路公団、関連企業に一部出してもらえないか。総工費と事業内容は。

企画課長 4月18日に地権者の同意を得たので、今農振の除外段階。その後事業認定となる。着工は十月末か十一月で、完成は年内中にしたい。

協力金は道路公団はメニュー一助成金の中で取り入れたいと言っていたので、助成金の内示は3500万円だった。もう360万円上積みして申請したい。

頸城自動車、越後交通は応じかねると言う。新潟交通も難色を示したが一応検討すると言っていた。



もうすぐ駐車場が出来ます

地域作り本町の場合は土地利用計画を基本に

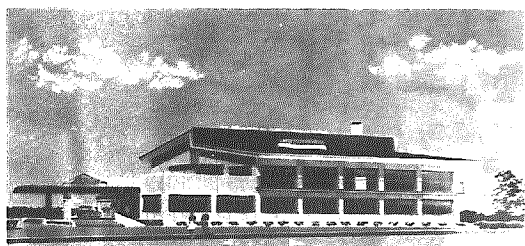
F議員 大分県の一村一品運動など各地でアイデアで地域の活性化を図っている。全国的に地域づくりや産業起こし

が盛り上っているが、本町の場合はどうか。本町の基幹産業は農業と

うが、特産品や農産物環境改善センターなどを地域振興にどう生かすか。センターで青空市場を考えているか。

町長 農業の近代化、公害のない優良企業の誘致、社会教育、コミュニティ活動、高級文化住宅などの基本となるのは土地利用計画なので、土地利用をまず考えたい。特に農業はハイポニカ農業を研究してみたい。

産業課長 本町の特産品は球根と枝豆の二つだが、将来はもう一、二増やしてPRもしていきたい。青空市場もセンター完成の際検討する。



61年秋に完成予定の環境改善センター

低俗な立て看板の撤去を法に触れず業者へお願い

G議員 最近、低俗な立て看板が国道や大野商店街に目につく。表現の自由は保障しなければならぬが、青少年健全育成の立場から撤去できないものか。

教育長 一例だが「あなたの個室で宇宙娘とランデブーし立仏小前に信号機の設置をドライバーに一時停止励行

撤去をお願いしたい。西警察にも協力を求めている。

ドライバーに一時停止励行にナンパーをつけたらどうか。

「ませんか」という看板があったが、この程度では青少年育成条例、刑法、県の広告条例に抵触しない。そこで、立て看板先に電話したのだが一向に連絡が取れない。連絡して撤去をお願いしたい。西警察にも協力を求めている。



撤去をお願いしたい。西警察にも協力を求めている。

公園計画はどうなっているのか

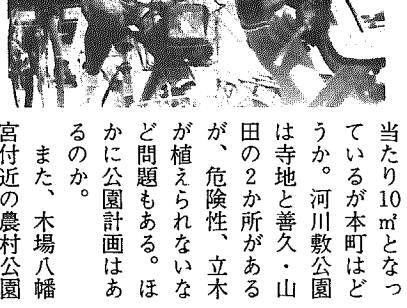
H議員 都市化の進展に伴い、住民は憩いやすらぎを求め、子供たちは遊び場を欲しがっている。公園の建設計画はどの程度か。

町長 本町の場合一人当たり5.18㎡である。河川敷公園以外の計画だが、民有地を固定資産免除で5年以上借りて公園にするなどという考えはある。

農村公園は農村総合モデル事業の計画で、モデルの予算が伸びない。もう一つ、飛び地になっていて交換が進まず着手できないでいる。できるだけ早く交換をすませ予算が

は一部ゲートボールに使われているものの、放っておいたためやぶになっていく。どうするか。緒立の史跡公園は可能性があると聞くが、具体的に進んでいるのか。

町長 本町の場合一人当たり5.18㎡である。河川敷公園以外の計画だが、民有地を固定資産免除で5年以上借りて公園にするなどという考えはある。



園の示す整備計画では一人当たり10㎡となっているが本町はどうか。河川敷公園は寺地と善久・山田の2か所があるが、危険性、立木が植えられないなど問題もある。ほかに公園計画はあるのか。



農村公園を計画しているが

町長の日記

浅妻茂一郎

前号の続き。パンクパーグリー市市内に入る。雪は少ないが寒さは零下三十度くらいになるといふ。今は花盛りときで、シャクナゲや現地の桜など。これこそ田園都市と思った。

グリーンエリサバス公園を視察。標高四百四十メートルのすばらしい庭園で新婚さんが多かった。中流、上流の住宅地、六万人収容の屋内競技場を見る。この競技場の屋根は布製で太陽光線が二〇％入る省エネ施設と聞き、土地の狭い日本でも出来るのでは、県、広域的に検討する必要があると思った。

スタンレー公園で記念撮影し、ライオンブリッジという橋を見た。この高さは船の出入りが頻繁のため、一上一下することで建設費が相当高い議論されたという。

ここで、米時間5月26日18時(日本時間27日10時)で第一目の日程が終わった。宿泊のハイアットリージェンシーパンクパーホテルに着くと同時に注意事項の説明を受けた。出発前に聞いてはいるものの念には念である。

まず、治安が悪いので注意すること。盗難に遭ったら出ないし盗

装で靴をはくなどである。入浴は夕食後の後で日本と逆である。湯衣、歯磨きなどはなしですっかり生活のリズムが狂う。

第二日目(27日)朝食は米6時30分(日22時30分)ホテル出発は

米7時。バスでパンクパー空港へ。さらに飛行機でカルガリーへ。カルガリーは海抜千三百メートルで人口六十万人。小麦、石油(油田)で有名。米13時(日28日5時)百八

十の展望台で昼食。バスで走ると右手にロッキー山、左手にグランド山、牧場、民間飛行場、鉄道貨物列車を見る。列車は百余車両編成であった。

国立公園の面積は三百九十四平方キロ。道路巾員は広いが側溝はなくカマボコ型。水はきれいで昼食に米飯弁当を頂いた。ふるさとを思い出した。小鳥がえきをもらいに足元にやってくる。

(以下次号)